

◇ 話題提供者への質問と回答 ◇

*** アンケートによせられた話題提供者の方々への質問に回答していただきました。 ***

① 海外学会の情報を入手するのが難しいと思います。いい方法があれば教えていただけませんか。

(質問①への回答:李媛さん)

いい方法であるかどうかはあまり自信ありませんが、私の学会情報収集の方法は、だいたい次の3種類です。

1) 検索エンジン(Google, Yahoo Japan 等)

ターゲット言語で検索するのがポイントだと思います。例えば、英語圏の学会情報を探する場合、キーワードを決めて英語で検索した方が効率的であると感じています。

2) メールリスト(各学会のホームページで確認)

多くの学会は、会員ではなくともメールリストに加入することが可能です。そこで、いろいろな情報(学会開催・論文投稿・新書紹介など)が入ってきますので、参考になると思います。

3) 情報の共有(研究グループ内・研究上での学外の知り合い)

先生、先輩からの情報共有、そして学会などで知り合った学外の研究者からの情報共有もとても大事だと思います。

(質問①への回答:田村理さん)

海外学会というと、なにか閉ざされたグループであり、敷居が高いとお感じになるかもしれませんが、学術雑誌とお考えになれば、とたんに馴染み深くなるのではないのでしょうか。日ごろからご参考になさっている(あるいは将来、頻繁に参照するであろう)外国の学術雑誌は、特定の学会または研究会によって発行されているものが大多数です。

したがって、それらを定期購読することが、学会に所属することになるものと考えられます(分野によってはそうでないかもしれない)。そこを基盤として、さまざまな情報を入手していけばよいのではないのでしょうか。とりわけ、世界レベルの巨大な学会ではなく、アットホームな小規模の研究会であれば、会費(購読料)が安いうえに、しかも人的なつながりが生まれやすいものと思われる。

(質問①への回答:田口茂先生)

各分野で、関連の情報を集めた Newsletter のようなものが出ていると思うので、参考になると良いと思います。

(質問①への回答:今井順先生)

「海外学会の情報」というのが何を意味しているのかわかりにくいですが、自分にとって適切な学会をどう探せばいいかということなら、やはり自分の分野で活躍しているような人がどんな学会に出ているのか、ネット上で調べてみると良いのではないのでしょうか。

② モチベーション維持のために大事なことはなんですか。

(質問②への回答:田村理さん)

無理にモチベーションを維持する必要はありません。気の進まない勉強を、いやいややっても成果は出ないからです。強いられた苦役をひたすら耐え忍べば、将来に何か幸福が待っているというわけでもありません。「自分はこれを究めたい」、「そのためにはぜひ留学したい」、「そのためには当面の生活手段を講じなければならない」等々といった思いがなくなったとき、換言すれば、無理にモチベーションを上げねばならなくなったときこそ、学問以外の道を模索するときなのではないかと思います。

(質問②への回答:田口茂先生)

とにかく短期でも留学してみることに。一度でも海外体験があれば、モチベーションにつながります。また、日頃の地道な語学訓練は、必ず成果が出ますので、「自分の力が上がったな」と思うたびにモチベーションが上がると思います。

③ 国内の大学院生が海外留学(調査)で活用できる良い奨学金プログラムを出来る限り教えていただきたいです。

(質問③への回答:田口茂先生)

ドイツ留学でしたら、DAAD(ドイツ学術交流会)奨学金がおすすめです。昔よりは競争率が低くなっているようです。各国の国費留学的な位置づけの奨学金は、一般にサポートが充実しているようです。ただしこれらは、国ごとに応募しなければなりません。これに対し、ロータリー財団の奨学金は、自分の好きな国に行けるメリットがあります。また、国際交流関係のプログラムが充実しているそうですので、滞在先で人間関係を広げたい方には特にお勧めできます。短期でしたら、手軽に行けるという点で、北大文学研究科の「共生の人文学」旅費支援をぜひ利用すべきです。

(質問③への回答:今井順先生)

私はロータリー財団を利用しました。旅費と2年分の生活費を出してもらったので助かりまし

た。それぞれの国の国費留学ができれば、それに越したことはないように思います。もっとも学会発表のためのお金ということでしたら、「共生の人文学」旅費支援をご利用いただければいいのではないかと思います。

(質問③への回答:研究推進室)

研究推進室からいくつかの関連リンクをご紹介します。

*北海道大学留学生センター > 奨学金について

http://www.isc.hokudai.ac.jp/www_ISC/cms/cgi-bin/index.pl?page=contents&view_category_lang=1&view_category=10305&allmenuopen=

※「個人で応募する奨学金一覧」には、今井先生や田村さんが利用されたロータリー財団国際親善奨学金についても記載されています。

*独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)

> 海外留学奨学金パンフレット

<http://ryugaku.jasso.go.jp/publication/pamphlet/>

※印刷用奨学金パンフレットデータ PDF 版がダウンロードできます。

> 海外留学奨学金検索サイト

http://ryugaku-shogakukin.jasso.go.jp/scholarship_abroad/page?action=swfglsearchjasso

④ 史料調査が未経験で、具体的なイメージが湧きにくい。準備、現地での過ごし方、帰国後のフォローなどについて、経験を教えていただけませんか。

(質問④への回答:田村理さん)

まず、当座のところ参照できる文献・目録・ウェブサイトなどを利用しつつ、自分の問題設定に即して有益であろうと推測される史料はどれとどれかを特定します。次に、それらが外国の文書館でしか参照できないことを確かめます。あとは、通常の海外旅行や、図書館の利用の仕方と同じであると思いますので、特筆すべき点はありません。少なくともイギリスの場合は、理不尽な危機が立て続けに迫ってくる、といった修羅場を想定する必要はないでしょう。

なお、スピーチのときにも触れましたが、わたしの場合は、幸運にも現地の研究者の助力を得ることができました。そのことにはたいへん感謝していますが、とはいえ、かりにそれがなかったとしても、最低限の成果のみは辛うじて得られていたと思います。つまるところ、「史料調査が未経験で」、「具体的なイメージが湧かな」かったとしても、まったく問題はないという

ことです。なぜなら、費用さえ工面できれば、困難なことはなにもないからです。むしろ恐れるべきは、みずからの研究が内在的に進展せず、それゆえに、海外での史料調査の必要性が、具体的に観念できないような状況であるといえましょう。

以上